

2010年(平成22年)12月9日(木曜日)



中村教授

水循環めぐり議論白熱

設立20周年シンポジウム

NPO・水道活性化懇話会 中村教授(滋賀大)の講演も



「NPO法人・水道事業活性化懇話会(AWC)」の設立20周年シンポジウムがさきごろ、大阪市阿倍野区の日本水道協会大阪会館で開催された。シンポには、関西地区の水道関係者など約120名が出席、中村正久・滋賀大学教授による講演や健全な水循環を巡つてのパネルディスカッションなどが行われた。

AWCは関西地区在住の水道関係者で構成し、水道事業の活性化に向け

てのレポートや提案を専門紙・誌に発表しているほか、シンポジウム、行政への陳情・請願など様々な活動を展開している。冒頭あいさつに立った菱田洋祐理事長は、こ

うしたAWCの活動や経過を紹介した後、「本日は

ある水循環、流域管理について一緒に考えてまいりたい」と語り、協力を求めた。

講演では、中村教授が「流域管理の現状と課題」と題して、琵琶湖流域における統合的湖沼管理(ILBM)の概要を説

明、その円滑な推進のためには▽計画・政策形成▽制度・仕組み▽財政▽を6本の柱とし平行して取り組んでいかなければならぬと指摘した。

「健全な水循環の持続に向けて」をテーマに行

われたパネルディスカッショーンは、中村教授を座長に、山根和夫・大阪市水道局理事、武島繁雄・水コン協名譽会長、玉井義弘・日水コン名譽顧問、矢野洋・元神戸市水道局参与の各氏をパネリストとして行われた。そ

稻場紀久雄・水制度改革国民会議事務局長(大阪経済大学教授)は「水制度改革」その現状と展望」と題して、水循環基本法を巡る最近の情勢などを報告し、成立に向けての支援を要請した。

それぞれのパネリストが琵琶湖や淀川、大阪湾などの水質動向、水行政における問題点などを語り、基本法の制定が必要「水行政の二元化を」「流域特区の創設を」などの提案を行った。